

令和 6 年度

錦江町地域包括支援センター運営協議会 議事録

1. 日時

令和 7 年 3 月 21 日（金） 14 時 00 分～15 時 00 分

2. 場所

錦江町役場 本庁 2 階大会議室

3. 参加者

運営推進協議会委員 9 名

4. 開会

5. 会長挨拶

6. 報告

(1) 令和 6 年度 地域包括支援センター事業報告について（資料 1）

7. 議事

(1) 令和 7 年度 地域包括支援センター事業実施・計画書について（資料 2）

(2) その他

事務局	○事務局説明 ※資料 1（P1～P5） ※資料 2（P6～P9）
会長	●質疑応答・意見交換 ただいまの説明に関して、委員の皆様、何かご質問等はございませんでしょうか。
会長	げんきぼ教室等の効果はどのような感じですか。
事務局	ゆうゆう運動教室は自立で動ける方が通っておられ、ほとんど、いつもと同じ方が通われている傾向にあります。効果としては、介護認定がつく高齢者の減少、自立で動ける方が継続して運動する事ができるが挙げられます。げんきぼ教室は、教室が修了した方については、卒業となっておりますが、令和 6 年度から卒業をなくして、継続できるようにしています。個別リハビリ教室は、手術後のリハビリが終了した方を対象にご自宅でもリハビリができるようにという目的で開催しております。

	順調に運動機能の維持向上につながっている方もいらっしゃいます。マシンの台数や、付き添うスタッフの人数の関係で、1開催あたり、参加者の定員は、5～6人ではありますが、それ以外の要望があれば、参加して下さる方をお誘いして、運動できる流れをつくっていきたいと考えております。
会長	悪くならないという事は、効果が出ている証拠だと思いますので、続けていただきたいと思います。
委員	令和6年度の報告を見させてもらったのですが、フレイル予防対策に人数が書いてありました。多分、積極的に参加する人は、各運動教室が重複して参加している可能性がありますよね。こういう事に積極的に参加する人と「もうわたしはいい」というような人もいるとは思いますが、この中で、去年、今年とされてきて、一人暮らしの参加が多いのか、それともご夫婦の参加あるいは、女性だけの参加で、男性はなかなか参加されないのか、そういう今までの過去の実態がありましたら、教えてください。
事務局	確かに、ご夫婦での参加とか男性の参加は少なく、だいたい、お一人暮らしの女性の方が多いです。年齢も85歳以上の方がほとんど多いので、男性の参加にもつなげたいなと思って、個別リハビリ教室に関しましては、男性の方に人気があるので、その方々を対象として、男性が入りやすい雰囲気をつくろうとはしているところですが、やはり、委員がおっしゃったように、女性の参加率が多いので、またそこも検討していきたいと考えております。
委員	例えば、年をとって物忘れをしたとします。年をとってからの物忘れなのか、認知症からの物忘れなのか、なかなか難しく、そのあたりの対応はどのようにされていますか。
事務局	一番難しい方々だと思います。普通の物忘れではなくて、日常生活に支障が出た時点で支援に入らせてもらっていますが、ご家族さんからご相談があった時には、日常生活に支障がなくて、本人さんもまだしっかりされているとの事だったので、途中で見守りをさせていただいたりとか、看護師さんに定期的にみてもらったりとか、そういう風にして、変化を見つけた時に、こちらから訪問をさせていただいて、ご家族と本人さん合わせて、受診のご相談をさせていただくようにしています。本人さんが納得されな

	いと、なかなか受診につながらないので、本人さんが、物忘れではなくて、ちょっと生活に支障がでてきたなという自覚がもしあれば、すぐに予約できる形をとっております。
会長	ありがとうございました。他に質問はないでしょうか。
委員	資料の P4 ですが、先ほど、包括のほうからもありましたように、生活支援体制整備関連施策で事務局のほうから言われた 8 講座の開催、口頭で述べられていましたが、こちらの資料のほうに、目標項目であげていれば、こちらは何と何が結果的にできましたとか、こちらの実績報告の時に、見える化というか、見やすいので、口頭で述べられるよりは、あげられたほうが良いのかと。意見です。
事務局	実績の方は、3 月という事で、まだ稼働していますので、出せなかったところで、来年度の所は、ちなみに参考までですけど、ころばん体操が 12 月で 4 回、ヨガ講座は 6 か所を 3 回、アタマとカラダのいきいき健康教室は 5 か所で 2 回、認知症講座は 6 か所、認知症パートナーは 10 か所、人生会議は 6 か所、健康教室は 7 か所、歯科教室は 5 か所という事で、令和 7 年度は計画させていただいております。以上になります。
委員	口頭で先ほど聞いているので、分かってはいるのですが、見える化というか、この資料のほうに書いていたほうがこちらも質問しやすいので、お願い致します。
会長	ありがとうございました。他に質問等ございませんでしょうか。
会長	それでは、令和 7 年度 地域包括支援センター事業実施・計画書についてはご承認いただけますでしょうか。
委員	はい。
会長	ありがとうございます。令和 7 年度 地域包括支援センター事業実施・計画書については承認されました。
会長	次に、(2) に入りますが、委員の方から何かございますか。

委員	地域包括支援センターがやっていらっしゃる、フレイル予防とか認知症カフェとかあるのですが、ひとつですね、我々も色々な事業を聴いているのですが、我々、施設側としても、何か一緒になって、協力をさせていただきながら、できるようなものがあれば良いかなと。コロナが流行ってから、地域との交流はあまりないですね。面会なども予約制にしており、夏祭りの行事とかも、ほとんどしていない状況なので、そろそろ地域に貢献できるような事もしないと、社会福祉法人として、地域貢献事業として位置づけられていますから、できればこういうような地域包括支援センターがされる事業に対して、積極的に協力をしながらできるものがあれば、させていただきたいなという風に思っておりますので、せっかくの機会ですから、何か来年の計画の中できる事があればおっしゃっていただきたいと思うし、色々考えて、そのように提案をさせていただければと思います。以上です。
事務局	ぜひ、協力していただければと思います。紹介させていただいた、7年度の各事業を精査して、協力していただけたところがあれば、協力をお願いをさせていただきたいと思います。ありがとうございます。
会長	他に何かありますでしょうか。
会長	それでは、委員の皆様方から全体を通してのご意見、ご質問等はございませんでしょうか。
委員	意見を述べさせていただきます。この包括支援の協議会を拝見して、非常に職員の皆さんが、地域の介護に一生懸命尽力されているのだなとあらためて認識したところでございます。私も個人的に町内をまわってみますと、皆さんもご承知の通り、人が極端に少なくなったなというイメージです。ここにもあるように、サロンも当然、現状維持が当たり前かなと思ったりもするわけですが、サロンの数も減ってきているし、この前、同僚の方と語ったら、大きな自治会でもサロンがなくなっているという事で、どういう事かなと一瞬、思ったりもしたのですが、とにかくいろんなコミュニティがぼちぼち欠けてきているのだろうなという認識でございます。私が一番心配するのは、町内の産業形態からいえば農業に次いで、医療・福祉が第2位にきている事です。総合振興計画でみたら、そんな感じでした。これは大変な事だよと。世間で言われている通り、農業も人材がいなくて、この分野もおそらく、外国人実習生に頼る事になるのだなと

	思ったりもするのですが、組織も、もちろんされているのですが、今度、総合病院がそこにできますが、いろんな施設で、人材不足が生じた場合、人材の奪い合いにならないかと心配をしたりもします。近隣市町村のある施設も閉じたという事で、そこには介護人がいないからそうなのかなと思ったりもするわけですので、このメンバーが中核となって、今後起きるであろう色んな人材不足に対して、検討、研究する時期にきているのだと思います。
会長	確かに、人材不足は深刻な問題で、私たち病院でも、外国人の方に来ていただいておりますが、おそらくこういう状況が増えてくると思います。どうしても従業員の確保という面で、すごく難しくなっていて、いろんなところで集約化しないといけないという事もありえる気がしているので、いろんな施設と共同して、様々な事を考えていって、できる事をやっていきたいなと思います。ありがとうございました。
会長	何か意見はないでしょうか。
委員	この包括支援センターの多岐にわたる活動内容から考えていきますと、今後、益々その要求が高まっていくだろうし、今、高齢化で地域の力がだんだんとなくなっていく現状の中で、包括支援センターの存在価値というのは十分高まっていくだろうと、期待をしているところですが、今後は、こういった高齢化、少子化の中で、医療を含めた色んな意味での福祉という対策をお互いに考える場を作っていかないと、太刀打ちができなくなるのではないかなというような事も日々心配をしております。先日、包括支援センターの方々にご尽力をいただきまして、今のところ1件落ち着いております。いろんな問題がありましたので、最終的には、包括支援センターに無理なお願いをしたところですが、そういったところから考えれば、どうしても包括支援センターに頼らざるおえない所が地域でも出てくるという事で、包括支援センターの職員の数に足りているのかな、無理をしているのではないかと心配に思っています。今後、包括支援センターが活躍される事をおおいに期待したいし、何か全員で、協力体制をとれないのかどうか、地域づくりのためにだれが責任をもって動くべきなのか、どこが発信すべきなのかといった事を、包括支援センターとしての意見を言っていたきたいし、いろんな意味でのまとまりをつけてもらいたいと思います。

会長	ありがとうございました。どこか1つだけが頑張ればよいでは、上手くいかないと思いますので、皆さんで顔を合わせてする関係はすごく良いかなと思いますが、地域包括支援センターのメンバーは足りているのでしょうか。
事務局	今のところ、こちらは、主任ケアマネ、社会福祉士、保健師の3名がそろっております。そちらに加えまして、事務職員1名、会計年度任用職員1人、ケアマネ2名を採用させていただいております。今いる職員体制で、他の団体、関係機関の協力を得ながら、1つ1つ課題に向き合って、解決していければと思っております。
会長	他に何かありますでしょうか。
委員	シルバー人材センターは現在164名の会員が登録しております。就業率を見ますと、60%ぐらいの就業率です。年々、高齢化が影響するのか、腰が痛かったり、膝が痛かったりで、仕事ができなくなったり、高齢者ドライバーもおりまして、健康体操の送迎をやっておりましたが、運転に自信がないという事で、辞められる方から、その仕事ができないという事で、相談を受けて、行政のほうのサービスの契約ができない状況となっております。民間事業の認知症カフェのほうはカバーができています。シルバーの最大の悩みといたしますか、課題は、再任用制度です。高齢者が70歳ぐらいまで働けるよという事で、再任用があって、なかなか入会をされる人が少なくなっている現状もありまして、農業の担い手不足で、私たちのほうに、じゃがいも掘り、高菜切りの依頼が来ているのですが、じゃがいも掘りには行くけど、高菜切りには行けないという実態があります。仕事はそこにたくさんあるのだけど、シルバー人材センターで働く会員の方には無理がきているなという事で、地域から頼られる事は嬉しい事だけど、我々、シルバーセンターも協力する事がなかなかできないです。目標は短時間就労をめざして、生きがいを持って働く事ですが、入会率も低いので、周りの方に、声かけや宣伝などをしていただけるとありがたいです。
会長	60%なのですね。
委員	はい。就業率は60%です。164名中、約100名の方が働いています。後は、「明日、明後日はやめたいのだけど」という方がゴールド会員という形で席を残している状態です。

会長	認知症、フレイルの予防対策にもなるので、ぜひ、声かけをして、会員を増やしていけたらと思います。よろしくお願いします。
会長	他は何かありますでしょうか。
会長	以上で議事を終了致します。皆様ご協力ありがとうございました。

8. 閉会